

制服検討ワーキンググループミーティング 第5回 7/7 (水) 15:35~

(1) 本日の流れの確認

1) 本日は決断を多くする会議である。

2) 考える内容は

①第2回「制服について考える週間」について

②7/21 (水) 全校報告会に向けての準備

→内容/どのような動画にするか/誰が編集するか/何を話すか/どこで撮影するか/いつ撮影するか等々

(2) 本日の熟考

1) 第2回「制服について考える週間」について

①服装規定を設けるか、否か (一度目の投票) 基準あり 9 票、基準なし 4 票

②「基準ありならば、どのような基準にするか」

- ・「他の学校の制服×」等、細かいところまでラインを決めた方がいいと思う。
- ・制服を着てくる場合は、「学校のドレスコードに従う」とする
- ・私服は「品性があるもの」と個人に委ねる
- ・エアコンなどで寒いからシャツの上一枚羽織れるようにはしたい
- ・ジェンダーの関係でリボンを着けなくてもいいのではないか
- ・スラックスを買っていない生徒でも準じたスラックスを履けるようにしてほしい
- ・「他校の制服」は他校に迷惑がかかるから×
- ・「品のある服」とは？
- ・「学校に行く服装として適切なもの」
- ・「他者に迷惑がかかる服装はしない」「他校の服は着ない」
- ・「制服の変形」
- ・イベントではないということ

③服装規定を設けるか、否か (二度目の投票) 基準あり

6 票、基準なし 6 票

「基準を設けるならば具体的にどのような文言にするか」基準文言『他校の制服は着ない』『制服を変形させて着ない』

→『他校の制服は着ない』は当たり前なのだから、わざわざ基準で明文化する必要ある？

『制服を変形させて着ない』も『変形』の基準が判断できない。それこそ主観による。

④服装規定を設けるか、否か (三度目の投票) 基準あり

4 票、基準なし 8 票

⑤この件の決断

- ・第2回「制服について考える週間」に関して「服装規定」を設けない
- ・基準としては「服装規定」は設けないが、他者に迷惑のかかる服装はなしにしたい
- ・2週間のイベントとすることなく、以下の目的を考えた上で服装を選択してほしい

「学校に行く制服として」「現行の校則に窮屈を感じていないか」「品性がある（内的要因）＋気候（外的要因）も考慮した服装の在り方について考えて欲しい」「イベントごとではなく、しっかり制服のあり方について考える期間にしてほしい」

2) 7/21（水）全校報告会に向けての準備内容基本方針「簡潔に」

①何を話すか

- A なぜワーキンググループが出来たのか（経緯）
- B 普段、どのような活動をしているのか（活動報告）
- C 制服について考える週間を実施します（目的や内容説明、具体的なもの）

②発表方法

- ・パワーポイントを用いて発表する
- ・パワーポイントに合わせて放送で話す。
- ・スライド

【役割分担】

①パワーポイント内の説明をする（話す）

②パワーポイント作成

③パワーポイント文章（草案）作成

A なぜワーキンググループが出来たのか（経緯）

B 普段、どのような活動をしているのか（活動報告）

C 制服について考える週間を実施します（目的や内容説明、具体的なもの）

※A～Cのメンバーは7/13（火）までに に原稿を共有する

記入のないメンバーは詳細を知りたい場合は、お近くのメンバーまでお声掛けを

（4）役割分担の確認

①規則（校則）としての制服

②ドレスコード（服装規定）及びマナーとしての着こなし

③多様性や特殊な状況への柔軟な対応

(5) 今後の全体活動

日付	内容	備考
7/13 (火)	に 7/21 (水) の発表原稿を共有する	各自
7/14 (水)	岐阜菅公学生服さん来校 13:30~1h 場所: 生物講義室	保護者懇談
7/16 (金)	活動報告会のプレ発表 (放課後 向け) 場所未定	PM校舎立入禁止
7/19 (月)	活動報告会の校長先生向け発表 (放課後) 12:45~ 場所: 校長室	保護者懇談
7/21 (水)	オンライン集会にて、全校生徒向けの活動報告会	夏季休業前最終日

7/22 (木) ~8/24 (火) 夏季休業

8/27 (金) ~	制服について考える週間【第2弾】	体育祭終了日まで
---------------	------------------	----------

※7/16 (金) ~7/20 (火) は 7/21 (水) の発表原稿を必要に応じて修正する業務が入ります。

(6) 7/14 (水) の確認

Classi に 7/14 (水) の詳細をアップロードしました。そちらをご覧ください。

スクールポリシー 「荒野をひらく探究人」		
【1】 自己の哲学の礎を築き、粘り強く物事に取り組める人材を育成します	【自分を啓く】	
【2】 「知」に貪欲になり、主体的・創造的に探究できる人材を育成します	【自ら拓く】	
【3】 多様な他者と協働し、課題解決できる人材を育成します	【ともに拓く】	